

在、高さ四〜五メートルまでに生長した樹木はクロキ、ヤマモモ、リヨウブ、ネジキ、ヤマザクラ、コナラ、シリブカガシ、アラカシ、タムシバなどである。したがってこれからも樹木は増え続けるが、もとのようなアカマツ林が再生されることはなく照葉樹林へと遷移するであろう。

タムシバは分布上注目し値する存在である。この植物はもともと気温の低い暖帯上部から温帯にかけて生育するものであり、本町のような暖帯下部の地に群落があるのは極めてまれである。タムシバの花はコブシに似た白い花で、三月下旬から四月上旬にかけて山を彩る。

城坂峠から東に約四〇〇メートルに入った所に標高二二〇メートルの下久保山があり、その南西斜面には面積は約一畝とあまり広くはないが、巨大な花崗岩の岩盤が露出した所がある。樹木は岩盤のくぼみや割れ目にかろうじて生育しており、他では見られない景観を呈している。かつては大きなアカマツが生育していたようであるが、ここでも枯れて高さ五メートルまでの幼木のみになっている。高木はなくアカマツと同様の亜高木にコナラやコシアブラがあり、低木層にはソヨゴ、コナラ、ヒサカキ、ネジキ、クロキ、リヨウブ、マルバアオダモ、イヌザンシヨウ、クリ、クロバイ、コシアブラ、シリブカガシなど、草本層にはこれまで樹木の幼木のほかにコシダ、ウラジロ、イヌツゲ、マルバハギ、シャシャンボ、コガクウツギ、ヤマツツジ、アリノ

トウグサ、トダシバ、チガヤ、ワラビなどが出現した。

### 三 社寺林の植生

勝山町では標高五〇メートル以下の平野部に多数の小さな森が散在している。その多くが古墳であったり、神社であったり、また、溜池の周辺であったりする。神社林の場合、森全体が自然林であることはまれで、たいていその一部はスギ、ヒノキの植林に変えられている。ここでは胸の観音、勝山神社、綾塚古墳、扇八幡古墳、箕田大池の五か所の森について調査した。五か所とも優占種はツブラジイであり、亜高木層ないし低木層にミミズバイが出現するので本町の低地のシイ林は植物社会学的にはスダジイ・ミミズバイ群集に属する。町内のシイにはツブ



写真1—14 扇八幡古墳の後円墳上の植生



写真1—15 胸の観音駐車場付近のシイ群落

表1—3 平野部の森の植生

2002.8調査

方形区番号		1	2	3	4	5
地 名		胸の観音	綾塚古墳	勝山神社	箕田大池の森	扇八幡古墳
高 度 (m)		80	40	50	50	45
方 向		E20S	N70W	N45W	N	E
傾 斜 (°)		10	10	20	20	5
面 積 (m <sup>2</sup> )		20×20	10×20	20×20	15×20	20×20
出現種数		33	29	17	32	23
植 物 高 (m)	高木層	8～15	8～15	8～17	8～18	10～25
	亜高木層	3～8	3～8	3～8	3～8	3～10
	低木層	1～3	1～3	1～3	1～3	1～3
	草本層	0～1	0～1	0～1	0～1	0～1
植 被 率 (%)	高木層	100	100	100	100	100
	亜高木層	40	70	30	80	60
	低木層	30	50	10	30	50
	草本層	5	50	5	15	90

方形区番号	1	2	3	4	5	常在度	方形区番号	1	2	3	4	5	常在度
ツブラジイ T <sub>1</sub> T <sub>2</sub> SH	5	3	5	5	5	V	サカキ S	+	+	·	+	·	Ⅲ
クロキ T <sub>1</sub> T <sub>2</sub> SH	+	2	+	3	4	V	シロダモ SH	+	·	·	+	+	Ⅲ
ヒサカキ T <sub>2</sub> SH	+	3	+	2	2	V	コ克蘭 H	+	·	·	+	+	Ⅲ
オオカグマ H	4	2	+	+	+	V	ネズミモチ T <sub>2</sub> S	+	+	+	·	·	Ⅲ
カクレミノ T <sub>1</sub> T <sub>2</sub> H	+	2	+	3	+	V	フジ T <sub>1</sub>	+	+	·	·	·	Ⅱ
ミミズバイ T <sub>2</sub> SH	1	+	+	+	2	V	ヤブムラサキ S	+	·	+	·	·	Ⅱ
ヤブラン H	+	+	+	+	+	V	キツタ H	+	·	·	+	·	Ⅱ
テイカカズラ T <sub>1</sub> H	3	+	+	·	3	Ⅳ	ヤマフジ H	+	·	·	+	·	Ⅱ
オオアリドウシ H	1	+	·	+	3	Ⅳ	ムベ H	+	·	·	·	+	Ⅱ
タブノキ T <sub>1</sub> S	+	·	+	1	+	Ⅳ	コナラ T <sub>1</sub>	·	+	·	+	·	Ⅱ
アラカシ T <sub>2</sub> SH	+	1	+	·	+	Ⅳ	ヤマザクラ T <sub>1</sub>	·	1	·	+	·	Ⅱ
ヤブコウジ H	+	+	+	+	·	Ⅳ	ウラジロ H	·	+	·	1	·	Ⅱ
ホソバカナワラビ H	+	+	+	+	·	Ⅳ	ホソバジャノヒゲ H	·	+	·	+	·	Ⅱ
サルトリイバラ H	+	+	·	+	+	Ⅳ	ベニシダ H	·	+	·	+	·	Ⅱ
イヌビワ T <sub>2</sub> SH	+	·	·	+	1	Ⅲ	ハナミヨウガ H	·	·	·	+	+	Ⅱ
モチノキ T <sub>2</sub> S	+	·	+	·	+	Ⅲ	ヤブニッケイ SH	+	·	·	+	·	Ⅱ

1つの方形区だけに出現した種類

第1方形区：ハマクサギ、コシアブラ、ゴンズイ、フウトウカズラ、フユイチゴ、シュンラン、チヂミザサ

第2方形区：アカガシ、ネジキ、リョウブ、コバンモチ、ホソバタブ、コシダ、ナキリスゲ、シシガシラ

第4方形区：カゴノキ、ヒメユズリハ、ヤマハゼ、アケビ、ヘクソカズラ、ネザサ、ヒノキ

第5方形区：ヤブツバキ、サカキ、ツルコウジ、シュロ、ヤツデ

注 植物組成表(表1—1～表1—3)の見方

・T<sub>1</sub>は高木層、T<sub>2</sub>は亜高木層、Sは低木層、Hは草本層を示す。

・被度および被度階級=ある種類が方形区(植生調査区域)の地表面に占める度を被度とよび、被度階級で示す。

被度階級	植物の占める面積	被度階級	植物の占める面積
5	方形区全体の1～3/4	2	方形区全体の1/4～1/8
4	3/4～1/2	1	1/8～1/16
3	1/2～1/4	+	1/16以下

・常在度=調査した方形区のどれだけにその植物が出現したかを20%ごとの5段階(V～I)に分けたもので被度および常在度の高い種類がその群落の優占種となる。

ラジイとスタジイの二種類があるがツブラジイの方が多い。どちらとも非常によく似ており、堅果を見ないと判別し難いので組成表ではツブラジイとして挙げた。一般的にはスタジイは海岸寄りの地域に、ツブラジイは内陸の地域に分布する種類である。

町内の五か所の森を総合すると高木層はツブラジイに次いでクロキ、カクレミノ、タブノキなど、亜高木層はミミズバイ、アラカシ、モチノキなど、低木層はヒサカキ、サカキ、イヌビワなど、草本層はヤブラン、テイカカズラ、オオアリドウシ、ヤブコウジ、オオカグマ、ホソバカナワラビなどの被度や常在度が高くなっており、照葉樹林の特徴をよく表している。しかし、仲哀山地などと同様に低地においても、一般の照葉樹林では普通種であるヤブツバキとアオキがほとんど出現しない。

胸の観音では第一駐車場の上部を調査した。直径五〇錢、樹高一五<sup>尺</sup>のやや古いすぐれたシイ林である。シイの樹下には亜高木や低木のミミズバイ、草本層にオオカグマの多い林である。綾塚古墳では二又池に続く斜面を調査した。ここではシイにクロキ、カクレミノ、アカガシ、アラカシ、ヤマザクラ、リョウブなどが交じっている。これほどの低地にアカガシが出現するのは珍しいことである。勝山神社では長い参道の両側に带状にシイ林が残り、他は人工林化している。しかし、社殿跡の左側にはシイ林がまとまって見られる。箕田大池では南側の手前

にヒノキ林があり、それを抜けると自然林となる。シイの他にはクロキとカクレミノが多い。扇八幡古墳は六世紀前半の前方後円墳である。古墳上やその周辺には大径木がたくさんあるが、低木や草本は刈られて一見公園化されている。樹木の主な種類はツブラジイ、イチイガシ、シラカシ、シロダモ、ナメノキ、エノキ、クスノキ、ミミズバイ、ヤブニツケイ、クロキ、カクレミノ、モチノキ、クロガネモチ、エゴノキ、ホソバタブ、ネズミモチ、イヌガシ、サカキなどの自然木とイチヨウやスギの植栽である。周囲四四〇<sup>メートル</sup>、高さ二三<sup>メートル</sup>のツブラジイや周囲三二四<sup>メートル</sup>、高さ二五<sup>メートル</sup>のイチイガシ、それに分布のまれなヤマモガシの存在が目を引く。調査は人の手の入っていない北側で行った。ここでは樹下にクロキ、ヒサカキ、ミミズバイが多く見られ、草本層はオオアリドウシとテイカカズラで埋まっていた。

#### 四 長峽川の植生

長峽川の本町最下流にあたる上田橋から上流の岩熊橋及び上河内橋までの間を平成十三年十月に調査した。川の中の植生は洪水により、また、堆積した土砂や生えた植物を除去するなどの作業により川の中の状況が絶えず変化しているために同じ場所に同じ植生がいつも見られるとは限らない。特に平成十四年夏にはたびたび洪水が発生したのでここに記した状況はすでに